

AMCエンターテインメント HD A(AMC)

【セクター】 メディア

【市場】 NYSE

【企業概要】

1920年創業の世界最大の映画館運営会社。約950の映画館、10,600のスクリーンを運営して、米国の映画館数で18.7%、興行収入で21.0%のトップシェアをもち（2019年末）、欧州でも最大です。売上は品目別で入場料が57%、飲食が29%、その他が14%、地域別には米国が67%、海外が33%を占めます（2020年12月期）。電動リクライニングシート、ロイヤルティプログラム、サブスクリプションプログラムの導入など業界のイノベーションを主導しているとの定評があります。

【業績】（単位：売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース）

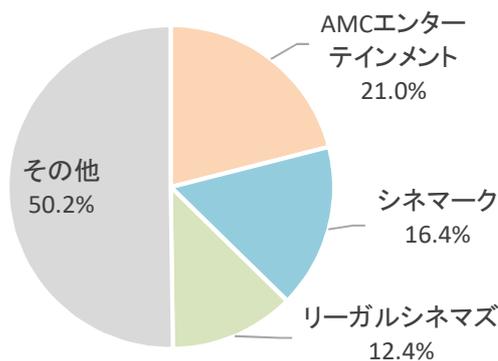
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
19.12期	5,471	-112	-1.08	0.80	11.7	-11.4	8.9
20.12期	1,242	-1,893	-16.15	0.03	-12.9	-	-27.8
21.12期（予）	2,410	-1,266	-2.77	0.02	-3.6	58.6	-

※EPS：1株当たり利益、BPS：1株当たり純資産、ROE：株主資本利益率

（出所）BloombergのデータよりSBI証券作成

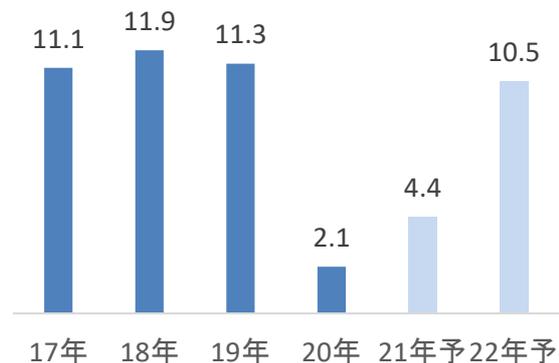
【主要指標】

米国の映画館興行収入シェア（2019年）



（出所）BloombergデータをもとにSBI証券が作成

米国の映画館興行収入（10億ドル）



注：予想は米国の映画業界誌「Boxoffice Pro」によります。

（出所）BloombergデータをもとにSBI証券が作成

【会社の見方】

新型コロナのパンデミックによって業績は大きな打撃を受けていますが、個人投資家の人気を背景とした株高を利用して4月と6月に新株発行で約10億ドルの資金調達を行って、資金繰りの厳しさは緩和しました。経済再開を受けて映画館の入場者数が回復しており、業績も徐々に改善しつつあります。一方、映画館の興行収入は、ネットフリックスなどインターネット動画サービスとの競争を受けて、2017年～2019年には横ばい圏で推移していたことから、新型コロナの終息後に成長シナリオが描けるか否かが問題でしょう。

【見通し・注目点】

7-9月期の売上は前年同期比7.5倍、4-6月期比75%増に回復する一方、2019年7-9月期との比較では57%の水準と回復の余地を残します。純損失は224百万ドルで、4-6月期の343百万ドル、前年同期の905百万ドルから縮小しました。

（SBI証券 投資情報部 栄 聡）

（更新日 2021/11/10）

本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したものです。正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。